

第2期 SI事業者向けBPM実践ワークショップ (3回シリーズ)

～SIer、IT子会社は、BPM事業化をどう進めるか？～

■ 開催の趣旨

ビジネス・プロセス・マネジメント(BPM)は、ビジネス/ビジネスプロセス改革を実現する経営手法として、今日の企業・団体組織にとって、最重要テーマのひとつとなっています。しかし、多くの企業は、ITツールとしてのBPMSを有効に活用する段階には至っていません。一方、ITサービス企業にとっても、BPM活動がユーザーによる内部的活動であることから、従来型ビジネスモデルでは踏み込みにくい分野となっています。他方、クラウド・コンピューティング、SaaSなどITの新潮流により、従来型のIT労働者需要が大幅に低下する時代が到来するとも言われています。このような中、SI事業者は、如何に従来型のビジネスモデルから脱却し、BPMに取り組む企業に魅力的なサービスができるか、が大きな課題です。

本コースは、講義+ディスカッション+デモンストレーションにより顧客企業のBPM推進に対して、SI事業者が、外部からどのような役割を果たせるのか、そこで強みであるIT技術をどのように活かすのか、を明らかにし、脱労働集約型事業モデルへの転換を示唆します。

- 受講対象
・独立系SI事業者、IT子会社の経営者、経営企画責任者
・新規事業開拓を推進するSI営業責任者
・SI事業者、IT子会社にて新規技術の導入、人材育成を推進する技術責任者

■ 本コースの特色

- ・SIer、IT子会社にとって、経営者の視点(事業機会、参入の切り口)と技術者の視点(適用技術、スキル、技術課題)の両面から学ぶことができ、BPM市場への多角的な検討を同時に検討することが可能です。
- ・BPM事業で先行する企業の経営者の生の声を聞くことで、事業化への現実的な視点が得られます。
- ・実際のBPMSによるプロセス構築プロセスを体感することで、具体的なイメージを描けます。

■ 進め方

本コースは、3回で構成されます。

第1回は、BPM/SOA技術がもたらすSIer事業モデルへの影響を想定し、先進事業者の事例をもとにBPM分野の事業モデルを講師・参加者によるディスカッションにより探ります。

第2回目はヒューマンプロセスを対象としたアプリケーション構築の基本を、実際の構築プロセスのデモンストレーションを通じて体感し、従来との視点の違いを理解します。

最終回は、企業が進めるBPM推進の基本枠組みであるBPM推進フレームワークに基づき、そこでのIT活用ステップを解説し、SI事業者が獲得しなければならない新しい設計・実装技術の知識を習得します。

- 受講料
日本BPM協会会員 30,000円/1社(2名まで)
非会員 60,000円/1社(2名まで)
- 定員:30名
- 申込方法 日本BPM協会HPより、お申込みください。(締め切り:2010年9月25日)

<http://www.bpm-j.org/>

■ 事前受講のお勧め

本コースは、日本BPM協会主催セミナー「BPM入門」の事前受講を前提にカリキュラム設計をしております。

事前の受講をお勧めします。直近では、9月13日(月)に開催いたします。お申込みはこちら

- 会期 9月25日(土)、10月2日(土)、10月16日(土) 各回13時～17時(受付開始12時45分)

講師

岩田アキラ氏
岩田研究所代表 日本BPM協会コモンセンス部会リーダー



日揮およびその情報子会社で40年間ユーザー企業IS部門、SI事業者、ソフトウェアプロダクト事業者の3つの立場でITを経験。2004年からBPMの開発手法研究に着手、ビジネスプロセス表記標準BPMNの国内普及に邁進。今年独立して「岩田研究所」を開業。自身のブログ(<http://biz-tech-services.com>)で研究成果を公開。

人見正徳氏(第1日の事例講演をご担当)
JBSソリューション株式会社 BPM本部 取締役本部長



同社は、2007年にBPMユーザー市場をターゲットとしたソリューション事業会社として発足、製造業/医療業界に対してプロジェクト/プログラム支援してきたノウハウを「Hybrid型BPM-Solution」として体系化し、数社の企業プロジェクトで実証。独自のBPMサービスモデルを展開しており、昨今の厳しい経済環境下の中で急速に事業を発展・拡大中である。人見氏は、同社BPM事業の事業部長として、創業時より中心メンバーである。本セミナーでは、BPM市場での事業モデル成功例として、その事業の特徴、案件創出、技術開発、人材育成に関わる苦心談をお聞かせいただきます。

第2期 SI事業者向けBPM実践ワークショップ プログラム

■ 第1目 9月25日(土曜日)13時~17時 テーマ: これからのSIer事業モデル

1. BPM/SOA時代のITサービス産業構造変革(1.0h) 岩田
・BPM事業に取り組む事業モデルのキーワード
⇒ 請負開発から、プロセス改善サイクルのサポート事業へ
・コード量に比例した受注高算定方式から価値提供サービスへの転換
・ソフトウェア開発請負業から特定ビジネスプロセスのソリューションプロバイダーへの転換
2. JBSソリューションのBPM事業モデル事例紹介(1.5h)
JBSソリューション 取締役 人見 正徳
☆ JBSソリューションは、3年前にBPM事業を約20人で創業し、既に200人を超える事業規模に急成長しています。その事業コンセプト、創業プロセスについて語っていただきます。
3. 事例Q&Aとディスカッション(1.0h) 人見、岩田、横川
4. 次回へのガイド:(0.25h) 岩田

■ 第2日 10月2日(土曜日)13時~17時 テーマ: 人間中心プロセスのIT実装の基本演習

1. ヒューマンセントリックBPMとは(0.5h) 岩田
2. クエストラ BPM Suiteを使った設計・開発・実行の流れ(3.0h) 岩田(協力:クエストラ)
 - 2.1 ワークフローの設計
 - 2.2 プロセス変数
 - 2.3 電子フォーム
 - 2.4 ロールと人の割り当て
 - 2.5 実行
 - 2.6 モニタリング
3. Q&A (0.5h) 岩田

■ 第3日 10月16日(土曜日)13時~17時 テーマ: BPMとSOAの設計と実装

1. BPM推進フレームワークに定義したステップのうち、IT事業者が関与する範囲について作業定義と前提手法を紹介(2.5h) 岩田

＜解説するBPM推進フレームワークのステップ範囲＞

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 2. 再設計 | 3. 実装・配備 |
| 2.1. 組織の設計 | 3.1. ビジネスプロセスの実装設計 |
| 2.2. To-Be ビジネスプロセスの設計 | 3.2. ヒューマンタスクの実装 |
| 2.3. ヒューマンタスクの設計 | 3.3. ビジネスルールタスクの実装 |
| 2.4. ビジネスルールの設計 | 3.4. サービスタスクの実装 |
| 2.5. サービスタスクの設計 | 3.5. パフォーマンス測定の実装 |
| 2.6. モニタリングシステムの設計 | 3.6. ビジネスプロセスへのマッピング |
| 2.7. ビジネスプロセスのシミュレーション | 3.7. 配備 |
| 2.8. データのモデリング | |

2. 参加者参加型ディスカッション(1.0h) 岩田、横川
テーマ1: ユーザー企業とサービスプロバイダーの役割分担
テーマ2: 顧客提案と案件獲得
テーマ3: 人材育成

* なお、上記スケジュールは、変更になる場合がございます。予めご了承ください。

会場、アクセス、お問合せ先 等

★会場 105-0011 東京都 港区芝公園3丁目1-22

日本能率協会ビル(JMAビル) セミナールーム

★アクセス

東京メトロ日比谷線 神谷町駅3出口より徒歩7分

都営三田線 御成門駅A5・A6出口より徒歩5分

＜お問合せ先＞

日本BPM協会 事務局 TEL.03-3434-3545

受付時間10時~17時(土・日・祭日を除く)

E-mail: toiwase@bpm-j.org

個人情報の取り扱いについて

日本BPM協会は、個人情報の保護に努めております。詳細は小会のプライバシーポリシーをご覧ください。今回、ご記入いただきましたお客様の個人情報は、本催し(カンファレンス・セミナー・研究会)に関する確認・連絡および各種諸手続きのため機密保護契約を締結した業務委託先(事務局協力会社および郵便物発送業者)に預託することがあります。また、小会事業活動におけるセミナー、イベント、アンケートのお願いなどに活用させていただくことがあります。あらかじめご承知おきください。

